

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ JRRN 会員寄稿記事.....	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	7

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2023」写真募集のお知らせ

今年も大募集！！

JRRN では、毎年、日本国内の「桜のある水辺風景」の写真を募集しております。これを機会に皆さんがもっと水辺の美しさに触れて、さらに水辺と人々との関わりについて考えるきっかけになれば嬉しいです。

撮ってすぐに投稿！！

JRRN のInstagramをフォローして、ハッシュタグ「#桜のある水辺風景 2023」をつけて投稿してください。

過去に撮影された写真も受け付けます。思い出の写真や、うまく撮れた写真に撮影時期やコメントをつけて投稿してください。

今年は3月1日から応募を開始します。応募方法の詳細は下記のチラシをご確認ください（変更の可能性あり）。



#Waterside scenery
with
Cherry blossoms
2023

#桜のある水辺風景2023

●応募期間：2023年3月1日（水）～2023年5月8日（月）

●投稿写真はご本人が撮影した「桜のある水辺風景」のデジタル写真のみ
※個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください

●応募方法

- ① Instagramを公開設定
- ② 「jrrn01」をフォロー
- ③ 「#桜のある水辺風景2023」をつけて投稿

応募作品はJRRNの刊行物やWEBサイト等に使用させて頂くことがあります。
問合せ：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
事務局 担当：阿部・後藤 (Eメール: info@a-rr.net)
主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)応募先・問合せ先: info@a-rr.net

昨年度に引き続き、事務局内選考の結果、最優秀賞に選ばれた方には、ささやかながらプレゼントをご用意しております。

皆様のお気に入りの、思い出の、新しく見つけた「桜のある水辺風景」をお待ちしております。

(JRRN 事務局・後藤千佳子)



(JRRN Instagram)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー第 16 回現地研修会 in 宮津市・大手川 開催報告

2022 年 12 月 11 日 (日)、第 16 回「小さな自然再生」現地研修会を京都府宮津市の大手川にて開催致しました。

フィールド探究部の高校生による司会で研修会を進行し、岐阜大学・原田講師からは川の地形が作られるメカニズムと多様な流れの場づくりに用いられるバープエについて、魚山研・山下講師からは竹蛇籠魚道による連続性再生の話題、またリバーロ・白尾講師からは高校生たちが復活させたいと願うフナの生態について講演頂きました。続いてのクラフト材料を用いた竹蛇籠の 1/10 スケールモデルの製作実習では、山下講師より竹蛇籠の編み方についてご指導頂き、悪戦苦闘しながらも時間内に完成した参加者も何名おりました。大手川沿いでも放置竹林が問題となっており、大手川での生き物の生息・生育場づくりに何とか竹を活用できないものか、フィールド探究部のこれからの探究に期待します。

午後に予定されていた大手川での参加者によるフィールド活動は、残念ながら悪天候により中止となりましたが、室内での意見交換会を通じて、活動の主役となる宮津天橋高校フィールド探究部が地域と協働で小さな自然再生を取組んでいくための課題やノウハウを参加者で共有しました。

本研修会の詳しい報告は、今年度末に開催報告書としてとりまとめ、改めてご案内させていただきます。

本研修会の開催に当たり企画から準備から当日運営までご尽力いただきました宮津天橋高校フィールド探究部の皆さま、当日にご協力いただきました講師の皆さま、また研修会当日にご参加いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

(令和 4 年度河川基金助成事業)

第 16 回「小さな自然再生」現地研修会 【プログラム】

(9:00-12:30)

<第 1 部：小さな自然再生でできることを考える座学研修>

開会挨拶・趣旨説明

水と土砂がつくる川の地形～水の力を活かすバープエ

(原田守啓：岐阜大学流域圏科学研究センター)

モウソウチクを用いた竹蛇籠魚道の開発と水域連続性の再生

(山下慎吾：魚山研)

フナ類の生息環境について

(白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所)

竹蛇籠製作実習 (山下慎吾：同上)

(12:30～13:30) 昼食

(13:30～16:00)

<第 2 部：大手川の未来をテーマに意見交換>

(16:00) 閉会



午前の座学研修の様子



竹蛇籠 1/10 スケール製作実習の様子



午後の意見交換会の様子

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー第 17 回現地研修会 in 茨城県・霞ヶ浦 開催報告

2023 年 1 月 14 日 (土)、第 17 回「小さな自然再生」現地研修会を茨城県・霞ヶ浦で開催しました。今回の取り組みは、霞ヶ浦に注ぐ清明川河口部にある植生浄化施設（導水路）と本湖とを手作り魚道で連結させ、導水路内の生物多様性の向上を図ろうとするものです。今回の発起人となった NPO 法人水辺基盤協会さんは、地域の子供達を対象に浄化施設導水路における生き物観察会や釣り教室を開催し、霞ヶ浦の自然環境を学ぶ貴重な機会を提供している方々です。一方でメンバーの行動力は素晴らしく、計画から実施まで、現地の確認、除草、調達などを次々とこなし、研修前に魚道ができてしまうのではないか？！という勢いでした。

当日午前の座学研修は、霞ヶ浦河川事務所・小野課長のご発表に続き、水辺基盤協会・吉田会長からの取り組みに関するご紹介、及び魚道設置やモニタリングに関する留意事項など、計 4 題の話題を各専門家にご提供いただきました。

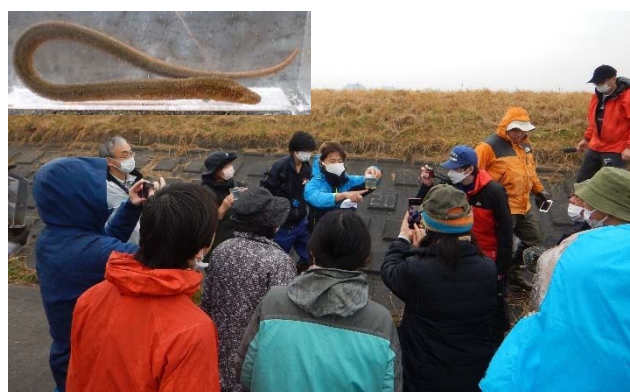
午後のフィールド実習では、手づく魚道と水路掘り、及び現地での水生生物の観察会を行いました。水路掘りは泥まみれで作業しましたが、途中にタウナギが出てくるなど、思いがけないサプライズもありました。魚道づくりでは水辺基盤協会のメンバーを中心とした参加者の熱気で、あっという間に完成してしまった印象です！ 開通式では水路から水がうまく流れ、参加者は皆笑顔に包まれました。現地研修当日は、この時期異例の温かさとなり、若干の小雨ではありましたが日中は 15℃ 近く気温が上がり、楽しい研修となりました。



座学研修の様子



泥まみれで水路掘りと魚道の組み立て



生き物観察ではタウナギが見られました



完成後の魚道前で記念撮影！

JRRN 事務局・白尾豪宏)

第 17 回「小さな自然再生」現地研修会 【プログラム】

9:30～11:30

<第 1 部：小さな自然再生の座学研修>

開会挨拶

清明川植生浄化施設における地域連携と新たな価値の創造

(小野正人：国土交通省霞ヶ浦河川事務所)

清明川植生浄化施設の維持管理活動と環境教育の取り組み

(吉田幸二：NPO 法人水辺基盤協会)

魚の道の役割と維持管理について

(岩瀬晴夫：株式会社北海道技術コンサルタント)

魚の道の生物モニタリングについて

(白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所)

11:30～13:00

昼食及び清明川植生浄化施設への移動

13:00-16:00

<第 2 部：魚の道づくりを通じた小さな自然再生の実践@清明川植生浄化施設、魚の道づくり及び浄化施設周辺の生物観察>

■現地技術指導：岩瀬晴夫（同上）、白尾豪宏（同上）

16:00 閉会

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)活動 – 「第 18 回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」<12 月 7 日 (水) 午後・オンライン> 開催報告

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の主催行事『第 18 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を 2022 年 12 月 7 日 (水) にオンライン形式にて開催しました。

本年は「NBS-based Ecological Restoration and Integrated Management of River Basins」をテーマに、ARRN を構成する日中韓 3RRN より各国 3 題の発表が行われました。(計 9 題)

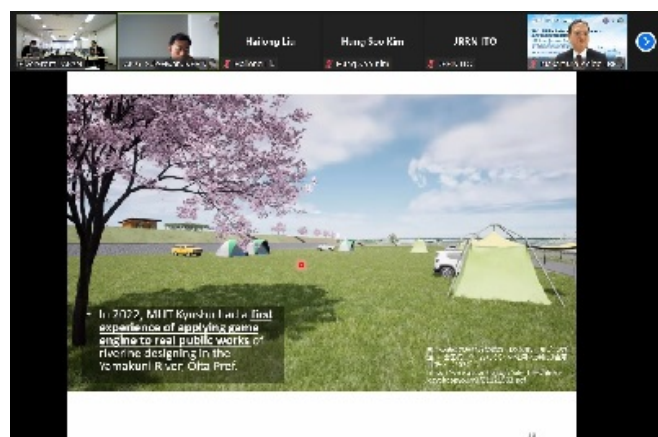
コロナ禍での前回に続くオンライン形式での国際技術交流となりましたが、事務局を務める中国水利水電科学研究院の仲間たちの入念な準備により、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

<第 18 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム>

【日時】 2022 年 12 月 7 日 (水) 14:00-18:00

【形式】 Zoom オンライン形式

【主催】 アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)



自然資本を活かした河川流域再生に関わる日中韓の最新の取組みが発表され、全 9 講演の発表資料は以下のページよりご覧頂けますので、皆様ご活用ください。

■ 講演資料のダウンロードページはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/857>

(JRRN 事務局・和田彰)

18th ARRN International Forum

亚洲河流生态修复网络第18届国际论坛

NBS-based Ecological Restoration and Integrated Management of River Basins

基于自然解决方案的流域生态修复与综合治理

Dec. 07, 2022 13:00-17:00 (UTC+8)

Live on Zoom
Online conference:
<https://zoom.us/j/94605858334?pwd=eUFOc3k0bnBYQkVwRXdBdGJFTVN3dz09>

Time	Presentation report	Speaker	Chair
13:00-13:20	River basin disaster resilience and sustainability by all as global warming adaptation measures in Japan	Mr. Wada Akira Japan Riverfront Research Center (JRRN)	Prof. Zhao Jinyong Chair of ARRN Technical Committee
13:20-13:40	Improving regulation services by green infrastructure of NBS	Prof. Leehyung KIM Kongju National University (KRRN)	
13:40-14:00	Introduction to research on the WB Program undertaken by ARRN	Prof. Zhang Jing Department of Water Ecology and Environment Research IWR (CRN)	
14:00-14:10	Q&A		
14:10-14:20 Tea Break			
14:20-14:40	Natural based solutions for eco flood risk reduction	Prof. Hungsoo KIM Inha University (KRRN)	Prof. Suk-Hwan JANG Daajin University Chair of KRRN
14:40-15:00	Landscape planning and ecological conservation and restoration in river basins	Prof. Liu Hailong School of Architecture Tsinghua University (CRN)	
15:00-15:20	3D River restoration toward digital twin river management	Dr. Nakamura Keigo Chief Researcher, Japan Riverfront Research Center (JRRN)	
15:20-15:30	Q&A		
15:30-15:40 Tea Break			
15:40-16:00	Study on ecological flow velocity to scour benthic algae from a mountainous river	Prof. Xu fengnan Department of Hydraulics IWR (CRN)	Prof. Shirakawa Naoki University of Tsukuba JRRN Technical Committee
16:00-16:20	Global environmental flow estimation based on fluvial biomass model	Ms. Hayakawa Yuriko University of Tsukuba (JRRN)	
16:20-16:40	In-stream flow in Korea environment-friendly river management	Dr. Jeongkon KIM Vice president of KDEC (KRRN)	
16:40-16:50	Q&A		
16:50-17:00	Closing	Prof. Zhao Jinyong, Chair of ARRN Technical Committee	



2月



あの日のあの川 リレー日記 ～第 66 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 66 話主人公 熊谷陽人

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：大分県乙津川)

「犬飼名物どんこ釣り大会」

いつのこと？： 小学校低学年

どの川？： 大野川

皆様こんにちは。坂井君からバトンを受け取りました筑波大学白川研究室の熊谷陽人です。私は幼い頃から地元大分の豊かな自然に触れてきたおかげで、水辺に関する多くの思い出があります。というのも、釣り好きな父の影響で海や川によく連れて行ってもらうちに、自分自身も水辺や自然の魅力にどっぷりとはまっていきました。今でも釣りは私の趣味であり、帰省する際の一つの楽しみとなっています。特に大分の佐賀関半島と愛媛の佐田岬の間には非常に潮の流れが速い豊後水道が通っているため好漁場として知られており、大分では堤防からも多種多様な魚を釣ることができます。春夏はメバルやキス、秋冬はアオリイカ、太刀魚、青物等というように季節ごとに美味しい魚が岸边によってくるため、年中多くの釣り人でにぎわっています。

バトンを受け取った際、釣りや水辺に関するエピソードはいくらでもあるので、どの話を書こうか非常に迷ったのですが、今回は特に思い出に残っている大野川のどんこ釣り大会について述べようと思います。どんこ釣り大会は、大分県豊後大野市で毎年 5 月 5 日のこどもの日に開催され、「どんこ」と呼ばれるユニークな顔をしたハゼの一種を釣るイベントです。昭和 4 年に開始され、現在に至るまで 70 年以上も続いています。大会が開かれる時期には鯉のぼりならぬどんこのぼりが川沿いに掲げられ、その光景は地域の風物詩となっています。大会とはいっても決して仰々しいものではなく、様々なイベントも開催され家族連れでも楽しめる一種のお祭りのような印象です。

私の父も子供の時に参加していたようで、その思い出をよく聞いていました。当時は悪知恵を働かせて、釣れたどんこの口の中に砂利を詰めて計量時の魚の重さをごまかそうとしたエピソードなどは特に印象に残っています。(もう時効として許してあげてください笑)

父の世代が子供時代から楽しんできたこのどんこ釣り大会ですが、私も小学校低学年の頃に家族と一緒に初めて参加しました。河原に釣り座を構え、虫エサのついた竹竿を持って張り切って臨みました。目標は大量に釣って景品を持ち帰ることだったのですが、場所が悪かったのか腕が足りなかったのか、ほんの数匹程度しか釣ることができませんでした。当時の自分は釣りに対しては非常に負けず嫌いで、思うように釣れず泣きそうになりながら竿を握っていたことを覚えています。

しかしながら、どんこ釣り大会はこれだけでは終わりません。もう一つの大きなイベントである、小学生以下限定の「うなぎの掴み取り」が実施されます。子供用プールの外から捕まえるといった小規模のものではなく、膝くらいの深さの約 20m 四方のプールの中に子供たちが入り込んで、放流されたうなぎをひたすら追いかけて捕まえるといったものです。私は姉と一緒に参加しました。開始とともに大量のうなぎが放流され子供たちが一斉に飛び込みます。しかしながら、ぬめりがすごいうなぎを子供の小さな手で握るというのは至難の業で、想像以上に難しいのです。結局私たちは制限時間内にうなぎをつかむことができませんでした。どんこに続いてボウズ(獲物が獲れないこと)となった私はあまりの悔しさに大号泣してしまいました。本当は 1 度しか参加できないのですが、あまりに落ち込んでいる様子を見兼ねた運営スタッフのおじさんがこっそりと「もう一回やってきよ！」と声をかけてくれて特別に再挑戦させてもらえることになりました。改めて姉と共に、開始のスタートと同時にうなぎのいるプールに飛び込みました。子供たちはうなぎを追いかけて縦横無尽にプール内を駆け回ってしまうため、どうしてもうなぎは散ってしまいます。今回もだめかと思った時にプールサイドにいた父が「コーナーに行け！」と声をかけてきました。言われるがままにプールのコーナーに走っていくと、逃げ場を失ったうなぎが追い込まれていきます。一回目でうなぎをつかむことは無理だと学んでいたため、今回は角に追い込まれたうなぎを両手ですくうようにしてプールサイドに投げ飛ばしました。そこに袋を持って構えていた姉がうなぎを入れて見事捕まえることができました。結局 4 匹ほど捕獲することができました。予想外の連係プレーに両親や周りのギャラリーが爆笑していたのを覚えています。家に帰ってから BBQ で捕まえたうなぎを蒲焼にして食べ、結果的にどんこ釣り大会は非常に楽しかった思い出となりました。

今考えると、このような自然で遊ぶ機会を与えてくれた家族や、子供が自然の中で楽しめるイベントを長年に渡って支えて下さっている運営の方々、うなぎ掴みを再挑戦させてくれたおじさんなどには感謝の気持ちでいっぱいです。それと同時に、自然と人との結びつきが減少している昨今において、どんこ釣り大会のような地域の特色を活かした風物詩がこれからも残り続けてほしいものだなと感じました。

(次は藪和史さんにバトンを託します)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2023 年 1 月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 207 回 河川文化を語る会『会報「河川文化」100 号を迎えて～人と川の新時代を迎えて～』(3/14 開催)

公益社団法人日本河川協会様より御提供頂いたイベント情報です。

【第 207 回河川文化を語る会】

◇テーマ：会報「河川文化」100 号を迎えて～人と川の新時代を迎えて～

◇講師：守田 優 (もりた まさる) 氏
(芝浦工業大学 名誉教授)

◇日時：2023 年 3 月 14 日 (火) 14:00～16:00

◇場所：砂防会館別館 3F「穂高」
(東京都千代田区平河町 2-7-4)

◇参加費：無料

◇申込み：下記からお申込みください。

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no207.htm

◇問い合わせ：公益社団法人 日本河川協会

TEL: 03-3238-9771 FAX: 03-3288-2426

E-mail: kataru@japanriver.or.jp

URL: <http://www.japanriver.or.jp/>

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4146.html>



講演要旨

日本河川協会の会報『河川文化』は、25年前、平成9年5月に創刊されました。お陰様で昨年100号を迎えることができました。
『河川文化』では、宗教、祭り、イベント、舟遊、漁労、水防、レジャー、市民活動、船、文学、音楽、川と食文化など、河川文化をめぐるさまざまなトピックを取り上げてきました。『河川文化』は、河川と人々の生活のかかわりのなかで形成されるものであり、その担い手は、生活する住民、市民です。人々の生活と河川のかかわりを歴史的に振り返り、そして現在も日々生まれている河川文化の活動を紹介することが会報『河川文化』の役割です。
本講演では、創刊時から関わった編集委員として、会報『河川文化』の歴史、河川文化とはなにか、そして会報の今後の展望について語ります。

日 時

2023年3月14日(火)

14:00～16:00

※ 会場受付開始 13時30分

会 場

砂防会館別館 3F「穂高」

申込方法

①氏名 ②(勤務先) ③E-mail または TEL ④FAX ⑤職種 (建設コンサルタント、建設会社、その他の民間企業、行政、財団/社団、NPO等)川や水の活動、学生、その他) ⑥ご所属の会員(個人会員)/一般の別を明記の上、E-mail/FAX/郵送のいずれかでお申し込みください。

※ ②と⑤の記載は任意です。

【申込先】日本河川協会「河川文化を語る会」事務局

※ 問合せ先をご確認ください

※ 右のQRコードを読み取り、受付フォームからお申し込みいただけます。

※ 定員(100名)になりしだい締め切らせていただきます。



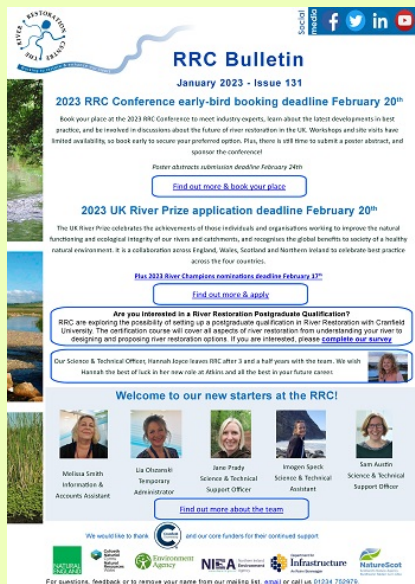
当講演会は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています



申込受付フォーム

【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介



RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2023 年 1 月号) が事務局より届きました。

本号では、2023 年の RRC 年次総会の発表募集、2023 年の英国河川賞公募、及び RRC の新運営メンバーが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4152.html>

【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) eNEWS 最新号」紹介



ECRR (欧州河川再生センター) の最新技術 News (2022 年 12 月号) が事務局より届きました。

本号では、I.S. Rivers Conference や Europe-INBO Conference 内で開催した ECRR 主催ワークショップの議論の概要を中心に紹介しています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4149.html>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

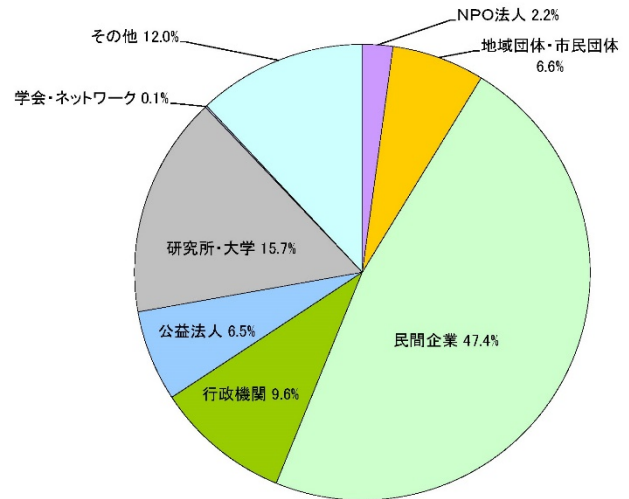
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2023年1月31日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：835名、団体会員数：70団体)

※12-1月の新規入会数：個人会員 2, 団体会員 5

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>